

■平成23年度 第1回博物館協議会 要点録■

日時：平成23年8月31日(水)
午後1時30分～

<出席者> 委員：大橋、嶋田、木村、衣斐、草野、西川、東
長浜城：大音、太田、森岡、佐々木、北村、西原、南部、富岡、福井

<館長挨拶>

4月より就任し、長浜城は、市民の方から大いに期待を寄せられていることを改めて感じている。長浜城も竣工以来、時が経過し、老朽化している部分も見受けられる。

長年お世話になった中島氏が博物館協議会委員を辞退されたため、新たに、東氏にお願いすることとなったので、よろしくお願いします。

★新委員の東幸代氏 自己紹介

★議長の選出（大橋会長）

<議題>

1)特別展の展示見学・説明について

○2階・3階展示室 NHK 大河ドラマ特別展「江～姫たちの戦国～」 太田解説

<講評>

木村委員…素晴らしい展示に圧倒された。

地域の資料がたくさん盛り込まれており、歴博ならではの展示だと思う。

また、解説文も非常に分かりやすく、市民目線であると感じた。

今回の展示を契機に、興味を持つ子どもたちが増えることを期待する。

個人的には「お犬」の像に出会えたことが感激だった。

大河ドラマの評判もあるだろうが、実物を見られることの感動は大きい。

東委員…開会式にも出席させていただいたが、図録が非常に良くできている。

学生にも見せたが、皆、勉強になると評判であった。

テレビよりも詳しく江について知ることができ、興味深い展示になっていた。

大橋委員…今回は特に充実した展示内容だと感じた。

パネル類も年表を使うなど、分かりやすく工夫されていた。

草野委員…映像も見ることができ、子どもたちにも分かりやすい展示内容だと思う。

また、今回の大河ドラマに合わせ、地域の子どもたちが参加できる自由研究コンクールが行われたが、子どもの知識や想像力、表現力を高める上で、素晴らしい取り組みだと感じた。

西川委員…連日多くのお客さんが入館されたと聞いているが、やはり「ホンモノ」を見られるというのが大きな魅力であろう。

自由研究コンクールの作品を見たが、本当に素晴らしい作品ばかりで感激した。歴博の方の努力やアイデアを感じた。

嶋田委員…あれだけの資料を集め、展示することは大変な労力だと思う。

2)平成23年度長浜城歴史博物館事業上半期実績および下半期計画について

○資料に基づき説明(西原)

大橋委員…館蔵資料がかなり増えているが、収蔵スペースに問題はないのか。

太 田 …現在、館内に4つの収蔵室(美術工芸品)、東別館に4～5部屋分の収蔵室(民俗資料)、東上坂町に3つの蔵がある。しかし、東別館の収蔵庫は、新庁舎の建設に伴い、移転を余儀なくされる。

美術工芸品は、やはり館内で保管すべきものであり、今後、多くの美術工芸品の寄贈や寄託があった場合、対応できないのが現状である。

今後、何十年も使えるような「市の蔵」が必要だが、美術工芸用の倉庫はどうしても設備費が嵩むため、財政的に難しいかもしれない。

木村委員…この問題は、短期間で解決できるものではないだろう。

しかし、博物館の役割には、「展示」とともに、資料の「収集」「保管」というものもある。「歴博として、収蔵面でこういう課題がある」ということを絶えず情報発信していくことも大切。

これからも多くの方に博物館を愛してもらうためにも、収蔵庫はぜひとも必要。

大橋委員…博物館協議会委員の全員一致の意見として、市当局へ要望してはどうか。

太 田 …現在、市には固定の文書庫や埋蔵文化財保管庫もない。

市として、歴史的財産を保管する場所がないというのは、やはり問題。

全市的に「市の蔵」が必要だと考えているが、理解はしてもらいにくい。

嶋田委員…教育委員会の予算の割合は、どうしても学校教育>社会教育となりがち。

議会に対しても何らかの対話が必要ではないか。

木村委員…市職員の中にも、歴博の展示会に足を運んでいない人は多いのでは？

東委員…他の館では、博物館協議会の委員に議員を入れているところもある。

太 田…最近、そういった委員には議員を入れないという風潮である。

大橋委員…インターンシップは、毎年2名程度か。

西 原…1名から2名で行っている。窓口は市役所総務課。

○友の会事業について 資料に基づき説明(福井)

木村委員…友の会活動も他に見られないような充実した内容だと感じる。

毎回お話しているが、少ない人員の中で、どのように事業をこなしているのか。

余りにも事業が多すぎて、充電する時間がないように思う。

大音館長…効率化だけを求める民間手法が、博物館や図書館などのクリエイティブな職場にも入ってきているが、やはりそぐわない部分も多いと感じている。

大橋委員…学芸員が調査・研究する時間がないのではないか。

少し事業を減らすことはできないのか。少々オーバーワーク気味ではないか。

太 田…友の会は、700名余りの会員を抱えている。それだけにニーズも大きくなり、絶えず新たな事業を維持していかなければならない。また、行政の中で学芸員＝研究職と認識している人は少ないと思う。

草野委員…私自身、友の会に加入しているが、今日のお話を聞いて、会員自身の認識が薄いことを実感した。

3)今後の博物館活動への意見・提言・その他

大音館長…昨今、文化の目標設定が入館者数や図書の貸出冊数などの数字面だけになっている部分がある。そういうものでもないと思う。

現在、長浜城、浅井資料館、高月資料館の館長を兼任しているが、組織としては、困っている部分もある。

今年の実績は特別なものであるということを、行政にも認識してもらわねばならないが、本日、委員の皆さんから力強いお言葉をいただいたので、今後に反映していきたいと思う。

大橋会長…これもちまして、終了します。慎重審議、ありがとうございました。

4)新規購入資料の内覧

・賤ヶ岳合戦図、豊臣秀吉像(北村季軒画)、四戦図屏風の内覧